



『C203 小学校算数科研修講座』の概要を紹介します！

子どもの問いを引き出す算数授業



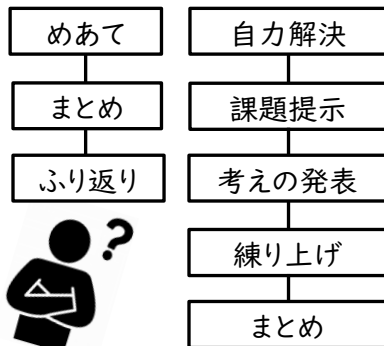
関西大学初等部 教諭 尾崎正彦先生

スタディサプリ小学校算数基礎講座講師 全国算数授業研究会常任理事

尾崎先生の授業づくりの視点をもとに教材を使ったグループ演習を重ねることで、授業改善に必要な見方・考え方が広がり、教材研究の難しさや楽しさを再認識することができる研修となりました。講義内容を一部紹介します。

算数授業の「型」を見直してみましょう。

- 主体的・対話的で深い学びにつながったか？
- 子どもは主体的になったか？
- 「型」に子どもを当てはめることが目的化していないか？
- 学力は上がったのか？



大切にしてほしいのは…

どうやって子どもの問いを授業の中で引き出すか？

※子どもの問いがある授業によって、見方や考え方が育っていく。



よい算数授業を創るために『段取り』を大切に。

- ①本時の見方・考え方を見抜く。
… 答えではなく、大切にすべき見方・考え方を見抜く
- ②見方・考え方を引き出す教材・発問を考える。
… どのような教材を扱い、どんな発問を投げかけるか
- ③何を、どんな順で提示するかを考える。
… 一度に、少しずつ、隠すなど、提示方法も大切
- ④価値ある子どもの声をキャッチする。
… 「つぶやき・表情・ジェスチャー」から見方・考え方を引き出す（共有・価値づけ・称賛）
- ⑤授業展開を修正する。
… 子どもの姿をもとに学習する内容や進め方を修正

問いを引き出すポイントは…

ズレ(困り)を演出する

- 友だちの考えとのズレ
… 考えが違えば不安になる。
- 予想とのズレ
… 自分の中で「○○だろう。」と思っていたことと違う。
- 感覚とのズレ
… 自分の感覚と正しい定義にずれがあることに気づく。
- 既習とのズレ
… 既習内容より少しハードルが高くて今まで通りできない。



受講者の声

自分が子どもだったとしてもワクワクを感じる算数授業の展開でした。どのような仕掛けをするかで子どもの意欲も反応も、そこからの学びも変わるので今後の教材研究をがんばりたいです。

様々な学校の先生方と1つの教材をもとにして交流できたことで、教材研究の考え方が広がりました。

子どものつぶやきをキャッチし、そのつぶやきを共有し、授業展開を修正できる授業を目指していきたいと思いました。

ズレ(困り)を演出するというキーワードが分かりやすかったです。

《問い合わせ》
 研修課 0770-56-1302